



4 月 2 7 日 (金) 父母教師会等の総会が開催されました。生徒の成長を保護者・教職員の力を合わせても精一杯支えていこうという愛情を感じる総会でした。参加いただきました保護者の皆様ありがとうございました。

「夢と目標」 父母教師会会長 朽木 康裕

新緑が眩しい季節を迎えました。皆様におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。また、日頃より本校 P T A 活動にご理解とご協力を賜り、深く御礼を申し上げます。



さて、希望を胸に入学した新入生も、徐々に高校生活に慣れてきた頃かと思います。在校生は、新学年を迎え、新たな気持ちで勉強に部活動に、それぞれの目標に向けてスタートをきったことでしょうか。目標を作れば、最終的には必ず結果がついてきますが、時には望んだ結果とならないこともあります。しかし、自己成長という面から捉えれば目標を掲げ結果が出るまでの「過程」が何より大きな意味を持っているのではないのでしょうか。高校生活の 3 年間は、その真只中にあり、思い描いた未来の自分に向かって道筋をつけ、自分を成長させてくれる大切な何かを、高校生活を通して一人ひとりが掴めることを願っております。そして、私達保護者は、子ども達を信じて成長していく過程を、先生方と共に見守る存在でありたいと思います。子供達が大人への階段を登っていく大事な時期を、先生方の力をお借りしながら一体となり支えいくために、P T A の活動がその一助になれば嬉しく思います。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

交通安全講話を実施

本校は毎月街頭指導を行い、交通安全の意識を高める活動を行っています。5 月 1 2 日 (金) に日本損害保険協会の山崎清美さんを講師に「自転車を取り巻くリスクと問われる責任」と題してお話をいただきました。

自転車の安全な利用を心がける

交通安全委員長

渡辺拓海 (3 年・袋原中出身)

自転車は私たちにとって身近な乗り物ですが、事故のリスクが非常に高いということを講話で伺い、改めて感じることができました。事故を起こしてしまった場合、二度と事故を起こす前に戻ることはできません。また、被害者の方や自分の周りの人たちにも大きな迷惑をかけてしまいます。事故のリスクをしっかりと把握した上で、ルールを守り安全運転をすることが大切です。この講話をきっかけに生徒一人ひとりが自転車の乗り方を再確認し、安全な利用を心がけ名取北高校から自転車事故をなくしていきましょう。



県総体に向けてパワー全開

5 月 1 2 日 (土) 1 3 日 (日) を中心に仙南総体が開催され、バスケットボール女子の 7 連覇を始め、多くの優勝を勝ち取ってきました。県総体ではバスケットボール女子が 8 シード、陸上競技部競歩の大内奎吾 (3 年・村田二中出身) が県シード選手、剣道女子個人の水戸春奈さん (3 年・船岡中出身) が第 3 シード、弓道男子の川上雄飛さん (3 年・吉田中出身)・佐々木智哉さん (3 年・富沢中出身) が国体候補選手として活躍が期待されています。インターハイへ「On Your Mark!!」

“頑張れ北高生”

仙南総体・春季野球南部地区 結果

(5/15 現在、個人優勝のみ記名)

○県大会予選のうち県大会出場を決めた種目

陸上競技	3000m SC 佐藤佑 (3 年), 2000m SC 大泉星香 (2 年) 5000m W 大内奎吾 (3 年) 県シード 5000m W 宮崎颯跳 (2 年) 県シード 計 16 種目 25 人県大会出場
バスケ女	優勝
サッカー	優勝
弓道男 (個人)	優勝 川上雄飛 (3 年) 2 位, 計 8 名県大会出場
弓道女 (個人)	2・3 位, 計 9 名県大会出場
卓球女	個人 1 名県大会出場
野球	第 3 位: 県大会出場

○仙南総体では無い種目のうち 3 位以内入賞の種目

弓道男 (団体)	優勝 (A チーム) 準優勝 (B チーム)
弓道女 (団体)	優勝 (A チーム), 第 3 位 (B チーム)
剣道男	団体第 3 位
剣道女	団体第 3 位 (A チーム), 個人優勝 水戸春奈 (3 年)
ソフトボール	優勝
バドミントン男	団体戦優勝, シングルス優勝 石本翔真 (1 年) 2・3 位, ダブルス 2 位
バドミントン女	団体戦優勝, シングルス第 2・3 位, ダブルス第 2・3 位
テニス男	団体準優勝, ダブルス優勝 立本士 (2 年) 佐藤優太 (2 年)
テニス女	団体優勝, シングルス優勝 沼田菜々夏 (3 年) 2・3 位 ダブルス優勝 千葉愛菜美 (3 年) 石川真夢 (3 年) 2・3 位

インターハイ出場を目指して

水戸春奈 (3 年・船岡中出身)

今回の仙南総体では冷静な試合運びができ、個人優勝することができました。県総体では団体戦ではチーム目標のベスト 4 を仲間と共に勝ち取り、個人戦では新人大会であと一歩のところまで逃した決勝進出を果たし、インターハイ出場権を獲得することを目指します。大会までの少ない日数ですが、一日一日を大切に仲間と共に努力していきます。



春の学校 (授業) 公開週間開催 5 月 14 日～18 日

授業公開は日頃の授業を、保護者の皆様や近隣地域にお住まいの方々、中学校の先生方にご覧いただくことで、本校、ひいては当地域の教育活動の更なる改善と活性化を図ることを目的として開催されました。参観に訪れた方からは「集中して授業を受けていた」「見やすい板書がなされていた」「落ち着いた雰囲気良かった」「高校生らしい姿が見られて良かった。文化祭が楽しみ」「公開日を増やして欲しい」等の意見をいただきました。

ご来校いただきました皆様ありがとうございました。



今回は名取北高食堂の運営をしていただいている阿部清信さん・智子さんご夫妻にインタビューしました。阿部さんご夫妻は仙台市の立町で割烹大多安を経営されており、仙台市から毎日、名取北高生の昼食のため、通ってくださっています。常に、食堂には女将さんからのメッセージが掲示されています。

「名北のパパ・ママ」

割烹 大多安店主 阿部 清信
女将 阿部 智子 様



Q 北高生の印象は？

A それぞれが素直で、おとなしいのですが、声をかけると反応してくれる優しい生徒達です。私にとっては自分の母校より名取北高に愛着を感じています。

Q 学校食堂を始めた理由は？

A 長男を中学一年生の時に交通事故で亡くし、ショックを受けていたときに弟（白石高校の学食を経営）から名取北高の学食の運営を依頼され、初めは乗り気ではありませんでしたが、亡き息子の成長を名取北高の生徒と重ね、今では一人ひとりが我が子のような思いです。「身体は口から食べる物で成り立つ」をモットーに食材にこだわっています。皆さんの「おいしい！」の笑顔がパワーの源になっています。

Q 北高生（未来を担う若者たち）へメッセージをお願いします。

A 一人ひとりが、それぞれの形で社会に貢献できるように、そして常に自分が「HAPPY」だと思えるような人生を送ってもらいたいと思います。もしも何かに悩んだときは、ああそういえば学校の食堂にあんなおばちゃんがいいたなと私のことを思い出してくれたら幸せだと思います。また、せっかく授かった命なので、つまらないことで悩んだりする時間をもつたいないと思います。神様は平等にチャンスを与えてくれていると思いますので、神様が与えてくれたチャンスを自分からつかんで、それぞれの形で輝いて欲しいと思います。今日が人生最後の日であると思って私は生きています。



5月19日（土）海岸林にクロマツを植える「植樹祭」にボランティア参加しました。本校からは140名の生徒・教職員が参加しました。また、地域連携事業で協力をいただいている、名取市立増田中学校からもご参加いただきました。主催者の皆様、参加者の皆様、大変お世話になりました。詳細は6月号に掲載いたします。

今回は、植樹祭で植えたクロマツの手入れを、年間を通して草取りや枝のせんていなどを行いながら、大切に育てるボランティア活動をしている本校の生徒にインタビューしました。海岸林に対する熱い思いを語ってくれました。

「植樹祭がスタートです。」

小野倅誠さん（2年・名取一中出身）・結城美夢さん（2年・富沢中出身）



Q 年間を通してどのような方々が参加されていますか。

A 大きな会社関係の方々が協力してくれています。例えば、IBEXやニコン、USJの方々も参加されていたのには驚きました。ボランティア活動終了後、団体ごとに挨拶があるんです。私たちも高校生の代表として挨拶しました。

Q 高校生は何名くらい参加していますか。

A 今のところ私たちだけです。

Q どのような挨拶をしましたか。

A 年間を通して参加を予定していますので、これからも頑張ります。（小野）

A 力仕事などで大変な仕事もありましたが、皆さんに優しく支えていただき、また、色々なお話ができて楽しかったです。また参加したいです。（結城）

Q ボランティア活動に参加するのはどうしてですか。

A 特にこの活動では、社会人の方と接する機会が多く、興味のある仕事内容や経験談などを聞くことができ、職安や職場見学等では聞けない生の声を聞くことができます。さらに、コミュニケーション力の向上にもつながってきます（小野）

A 自発的な活動に取り組む人たちは、好感度の高い人たちの集まりなので大変明るくて優しい人たちが多く、コミュニケーション力の向上には大きく役立ちます。そして、世界観の広がりを感じることができます。先日は、東京から取材に来ていました。（結城）

Q 北高生に伝えたいことは。

A 植樹祭の説明会で、お話しいただいた植樹祭後の取り組みについて大切にしていかなければなりません。また、つらいときに皆さんが協力してくれるところがボランティアの良いところです。皆さんも参加しませんか。（小野）

A 私たちの地元・私たちの暮らしているところで、若人が復興に向けて協力して取り組んでいく必要があると考えています。地元の高校生のパワーを発揮し、皆で積極的に取り組んでいきたいです。（結城）

地域清掃実施

名取北高ではクラス単位で、地域清掃を行っています。地域の中で学んでいることや、地域の皆様のお力をお借りして生活していることを感じる機会となっています。今後ともよろしくお願いいたします。

